玉翠會報

(第 12 号)

発行所　高松市番町
高松高等学校玉翠会
発行責任者　綾田整治
印刷所　石田印刷(有)

校舎・玉翠会館
落成記念号

待望の校舎・玉翠会館が落成

鉄筋コンクリート5階建の偉容

平成3年1月15日待望の新校舎が竣工しました。県立高校としては初の鉄筋コンクリート5階建、校舎棟は体育館に向かって「コの字形」に配置され中央にはプラザがもうけられています。教科教育型運営を前提にして、各教科の教室・職員室・ゼミ室・教科メディアスペースがゾーンとして有機的なまとまりを持つよう設計されています。教科職員室における質問への対応、ゼミ室での小人数指導、メディアセンターでの自主的学習や教科に関係するクラブ活動など、新校舎は「教える学校から学ぶ学校へ」を中心理念にすえ、生徒の自主的な学習活動に便宜を図るため様々に配慮しています。校舎中央のプラザは、各種催しや生徒の交流、団欒の場となるとともに建物のどこからも見渡せる憩いの場として活用されます。プラザや校舎の諸処には緑のスペースがおかれ、旧校舎の中庭にみられた、緑陰の庭園も確保されています。

校舎、5階部分は同窓会員待望の『玉翠会館』となっております。内部の大ホール・会議室・和室等充実した施設は同窓会活動の拠点となり、現役生と同窓生の心のふれあう場所ともなります。戦前、高等女学校には晩翠堂がありましたが、戦災で焼失、以来、同窓生の拠点となるべき施設が存在しませんでした。この度、『玉翠会館』が完成したことは同窓生全体として大きな喜びです。

「教える学校から学ぶ学校へ」
―自主的学習を重視―

校舎・玉翠会館の完成を祝う

会長　綾田整治

老朽化した高松高校の校舎改築と同窓会館の建築問題が具体化してすでに十年が経過しました。いま新装なった校舎を目前にし、若い後輩たちがその中で嬉々として活動する姿を見るとき、感慨は一入のものがあります。

この新校舎には、従来の、生徒をただ収容するだけという校舎建築の概念を脱却した、新しい考えが導入されていると聞きます。自主的な学習を促進するための試み、学校生活を潤いのあるものにするための試み、それらはすべて高松高校が従来から持ち続けてきた特質をますます発展させるための配慮でありましょう。

また、同窓会館の建設は会員永年の悲願でありました。高中・県女・高高、我々卒業生は母校を思うとき、何となく胸に高まるものを覚えます。それは「至誠一貫」に貫かれた高中精神であり、毅然としたおやかな雪持笹に示される県女の伝統であり、また、独立自主の熱意に燃えた高高時代への回帰でありましょう。その熱い思いを結集し、多数の同窓会員諸兄の協力によって、ここに同窓会館(玉翠会館)が完成を見ました。校舎の五階部分に組み込まれた構造は全国的にも珍しいもので、学校建築には導入が難しい大ホール、和室、小会議室を配置しました。四万に余る同窓会員の活動の基地となるとともに、在校生のさまざまな活動に活用されることによって、一層その存在価値が発揮されることを願ってやみません。当会館設にあたり、建設基金の拠出にあたり、ご協力を賜った多くの同窓生各位、ご芳志を寄せられた法人にたいして深甚なる感謝の念を表するものであります。

本年は母校創立九八年、平成五年には創立百周年を迎えます。すでに創立百周年記念行事企画委員会が発足して活動を開始いたしておりますが、今回の校舎・玉翠会館落成を皮切りに、百年の歩みを総括し、新たな百年、きたるべき二十一世紀における発展を期待いたしたいと思います。会員各位のご自覚を念じ、今後とも本会の活動にご協力賜りますようお願い申しあげます。

ごあいさつ

校長　塩井敏治

五十有余年の風雪に耐え、重厚さをたたえる昭和の校舎と、現代感覚に満ちた平成の校舎とが対称的で、時の変遷を目のあたりにする思いがいたします。

待望久しかった新校舎ならびに玉翠会館は、一月下旬に見事に完成し初夏の空に燃然とその雄姿を見せています。そのたたずまいに花を添えるが如く、各部の活躍もめざましいものがあります。野球部は、この春の県下高校野球大会において大健闘しました。惜しくも優勝戦で、津田高に三対二で敗れましたが、各部ともに、あの建設途上の槌音を励ましのかけ声として、よく練習に励みました。なかでも演劇部やフェンシング部は、四国代表として全国大会に出場、漕艇部も女子シングルスカルで全国第二位になりました。

また大学進学の状況は、週刊誌等でご存知の方も多いと思いますが、昨年を上回る好成績をあげ、高高の健在ぶりを示してくれました。これからは、新校舎を基盤として、よりいっそうの飛躍をいたしたいと存じます。

現在、在校生達は、先輩の皆様が築かれた立派な伝統を継承し、さらに新たな息吹を加えるべく日々精進し、学習活動はもちろん学校行事や部活動等においても、やる気満々の心意気を見せています。

玉翠会館は、学年集会やクラブ活動等にも利用させていただいており、先輩のありがたみをしみじみと感じております。また在校生は、先輩の皆様が学んだ旧校舎への思いも熱く、去る二月上旬、新校舎へ移る際には、積年の壁の汚れを取り、床を掃き清め、机を整然と並べて別れを惜しみました。あのくぼみのついた階段や、教室のたたずまい等を心象風景として大切にするのではないかと存じます。

二月九日より新校舎での授業を開始していますが、このすばらしい建物にふさわしい魂を入れるべく、自ら学ぶ姿勢を確立しつつあります。教職員一同も、心を新たにして、県内外にますます誇りうる活気に満ちた学校にいたすべく努力する所存であります。

どうか平成五年の百周年に向けて、よりいっそうの御指導、御鞭撻を賜りますよう切にお願い申し上げます。

終わりになりましたが、会員の皆様方のますますのご健勝と、玉翠会のご発展を心からお祈りしてごあいさつといたします。

(2・3面に特集記事。このため代議員会報告は5面に掲載)

Nippon Meat Packers, Inc.

幸せな食創り
ニッポンハム

校舎落成に寄せるメッセージ

新しい校舎と同窓会館の落成によせて

香川県知事　平井　城一

香川県立高松高等学校同窓会館の竣工、誠におめでとうございます。

新校舎の全面改築を機に、同窓会館が校舎の中に組み込まれて建てられましたことは、全国的にも珍しく、関係各位の母校愛の結晶と存じ、衷心より敬意を表したいと存じます。

過日、竣工した校舎を視察いたしました折、同窓会の一人として同窓会館も併せて拝見させていただきました。

音響・照明装置を備えた五百名余を収容できるホールをはじめとして、和室・会議室等々、いずれも内装・設備にいたるまで細かい配慮がなされており、大変立派であることに驚かされました。また、これらの施設は、在校生の集会や部活動などにも利用されることとお聞きし、誠にすばらしい試みと感銘いたしたところであります。

今回、全面的に改築された新校舎は、日本建築学会の基本構想をもとに建てられたもので、限られた敷地を効率的に利用しながらも、ゆとりとやすらぎが感じられるような設計になっております。

外部に対しましては、市民生活に溶け込むような開かれた学校という印象を与える工夫がなされておりまして、周辺の日本赤十字病院・文化会館・県庁舎の景観と合俟って高松市街地としても新しいゾーンを形成するものと思います。

一方、内部におきましては、生徒達が充実した学校生活を過ごせますよう、親しみが持てて、さまざまな人間交流の可能な場が確保されているとのことであります。

今後、生徒諸君が新しい校舎を自主的に活用していく中で、明日の社会の拓き支える人材が育成されていくものと期待いたしているところであります。

近年、時の流れはとどまることを知らず、社会の変化もまた激しいものがあります。このような時代においてこそ、人と人との心の交流が大切になってまいります。数々の青春の思い出を残すこの番町の地に新築された校舎と同窓会館におきまして、二十一世紀に心豊かで、たくましく生きる力が養われますとともに、同窓の輪が一層広がりますよう心から念願してやまない次第であります。

念願成就を祝う

玉翠会副会長　井上　房一

昭和二十一年二月終戦により上海から帰還し元の古巣、県庁に復職した。庁舎は戦災で焼失、その跡地は進駐軍に占拠され県行政の執務場所がわが母校高松高校、皮肉にも母校を占有していたことは何とも申訳ない思いでいっぱいであった。当時は官選知事の時代で戦後処理や民主化移行など、今日の東欧諸国、ソ連の混迷を思わせる状況で母校の借用もやむを得ないものと思われた。

間もなく県庁も仮庁舎に引越し母校も本来の姿に戻った。その後、教育制度の抜本的改革が行われ、県立高校の整備も長期に亘り逐次改善充実された。母校高松高校の整備は鉄筋で戦災を免れたこともあってか著しく立遅れていた。

岩本校長先生の時代に綾田玉翠会長さんから校舎実態の認識について知事に要請があった。私も見学して驚いた。昔の映画館に見られた天井から吊された扇風機、マイクによる授業など時代に取り残された名門校の姿はあわれにも感じた。おそらく関係者の殆どが狭溢な校舎に金をかけてもいづれ移転の外はないとの観念にとらわれていたためだった。

現在地での校舎の高層化、その配置、同窓会館の校舎内組入れによる活用などの基本方針はまさに正論であったと思う。玉翠会々長さん、歴代校長先生をはじめ関係者一同の執念ともいえる校舎整備、同窓会館の実現がここにかなえられたことは、まことによろこばしい。県庁退職後この問題に深いかかわりをもつに至った私としても思い出深い旧校舎の名残は惜しまれるが、かねてからの念願成就を心から祝ってやまない。

祝詞に代えて

玉翠会副会長　大社　ヒサヱ

新校舎落成まことにおめでとう存じます。皆様のご尽力に対して感謝申し上げますとともに同窓の一人として慶びを共にいたしたいと存じます。

省みますと、私が卒業いたしました昭和十二年にも校舎改築がありました。昭和十三年に竣工しましたので、ちょうど工事のさなかに女学校時代を過ごしたことになります。その時、とり壊されました校舎は、明治三十年建築と聞いております中庭の楠がございます。私達の頃は晩翠堂の北側にあったものを中庭に移されたものです。このたびの改築で新校舎のメモリアルゾーンに移され、その翠を繁らせ続けることが出来ました私は、高高の歴史をこの目で見て来た幸せ者でございます。

懐かしいものに高高女の校風には、良妻賢母の教育の中にも、立派に生き抜こうという進取の気風がございました。いま平成の時代に新しく生まれ変わった校舎で、高高の若人たちが母校のよき伝統の上に、更に輝かしい歴史を重ねて下さることを祈念いたしまして、お祝いの詞に代えさせていただきます。

新校舎完成を祝う

玉翠会副会長

太田　英章

真新しい同窓会館が、新校舎の五階部分に組み込まれて完成したのを見て感無量でした。私達玉翠会のお世話をさせていただいていた者は、歴代校長先生や綾田同窓会長を先頭に何回も何回も県や県議会に新校舎を現在場所で建て直すことを陳情したものでした。当時は高高を郊外の広い所に移転した方がよいという意見もあったりして、なかなかうんと云わなかった前川前知事のしぶい顔や、愛想の良かった吉岡教育長の顔が想い出されます。

綾田玉翠会会長のお考えは、高高はあの場所にあってこそ高高である、同窓会館は同窓会や卒業生が使用するのは勿論だけれども、同時に在校生にも有効に活用してもらいたい、そのためには五百人収容の中ホールが最も使い易いのではないか、ということではなかったかと思います。

私は昭和二十年に高松中学校へ入学し、三か月後に空襲で校舎を焼かれてしまってから、バラックや分教場の粗末な教育環境で勉強せざるを得ませんでした。戦後のことを思い出すにつけても、今度新築された校舎のすばらしさが特別に喜ばしく感じられます。戦後四十六年の歴史と日本の経済的発展がこの新校舎を通して見えてくるような気がします。

香川の優秀が集う我が母校高高が、このたびの新校舎完成を機に、名実共にベストハイスクールとして一層発展して行くよう祈念致します。

玉翠会館　見取り図

同窓会館　校舎５階に建築　957.09㎡
（玉翠会館）ホール（510人収容）会議室１　和室２室
エレベーター１基（17人乗）等

校舎改築の概要

1　経過

昭和57年
「香川県立高松高等学校の基本計画の策定に関する調査・研究」を日本建築学会・学校建築委員会に委託。

昭和57年1月
学校ヒヤリング及び生徒の生活調査実施。

昭和58年10月
同報告が日本建築学会学校建築委員会第10小委員会より提出される。

昭和61年10月
体育館建築工事起工式

昭和63年1月
体育館落成式

昭和63年10月
香川県建築設計協同組合による基本設計完成

昭和63年12月
同　実施設計完成

平成元年3月
平成元年度当初予算に高松高校校舎改築経費が計上

平成元年8月23日
校舎改築起工式

平成3年1月15日
校舎竣工

平成3年6月15日
校舎落成記念式

2　事業費　27・5億円

3　事業の内容

①校地面積　20・234㎡
②建築面積　約3、389㎡
③建物面積　延べ　約10、971㎡
鉄筋5階建て
④運動場　トラック（100m）多目的コート　テニスコート等
⑤プラザ　1階中庭　シンボル塔　回廊など
⑥自転車置場2ヵ所（約250台）
⑦駐車場　1ヵ所（22台）
⑧その他　門塀　植栽等

4　校舎の特色

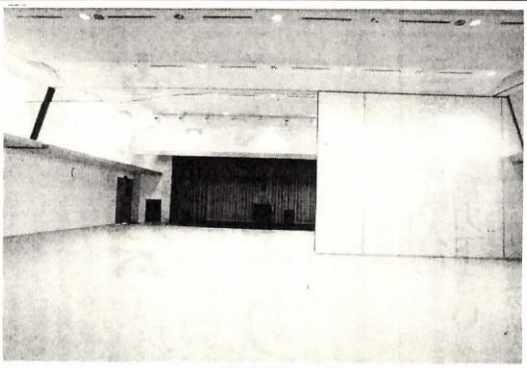
「教える学校から学ぶ学校へ」
・ゼミ室（8室）
生徒の能力・適正に応じた小人数による個別学習室。
・メディアセンター（6ヵ所）
教科ごとに独自のメディアを利用した学習センター。
・教科型教室
教室は教科ごとにゾーンを構成し、教科の運営・授業の効率化に配慮。
潤いのある生活空間
・プラザ
1階中央部に位置。各種行事等、多様な活動の場。
・コモンスペース（6ヵ所）
2・3・4階に各2ヵ所設置。学習・生活の潤いのスペース。

感動を

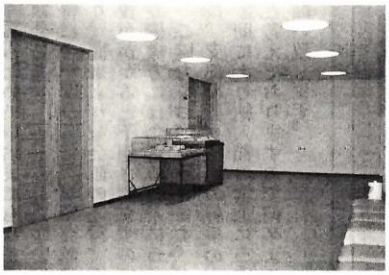
百十四銀行

咲かせたい。

いつも自分のベストをつくしたい。
未来の夢や目標に向かって
一歩一歩、着実に歩いていきたい。
そして、一人ひとりの心のなかに
小さな感動を呼び起こしたい。
百十四は、そんなあなたのがんばりを
せいいっぱいお手伝いいたします。



玉翠会館ホール

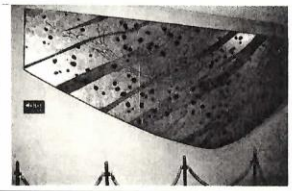


玉翠会館ホール入口

玉翠会館・会議室

校舎内点描

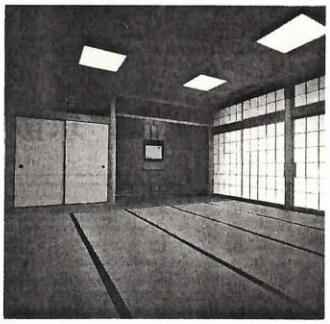
「マジック」
橘野恵委子氏
(図書館内)



「時を越えて」
大須賀選氏作
(玄関ホール)

エレベータ

玉翠会館・和室入口



玉翠会館・和室

昭和の校舎を送る集い
旧校舎を偲んで　座談会

出席者
植田　澄子（高女15年卒）
赤松千代子（高女18年卒）
佐々木みねず（高女20年卒）
村尾　宗政（高高28年卒）
秋山　静子（高高32年卒）
木村大三郎（高高34年卒）
豊田　章三（高高35年卒）
石橋真知子（高高42年卒）
間島　暎一（高高47年卒）

■旧校舎の思い出■

植田　旧校舎は私が卒業する一年前に出来、うれしくてたまらないのといっしょに、毎日ぬか袋で掃除ばかりさせられたという印象が、卒業して五十何年経っていますが残っています。その汗水を流して磨いた校舎がなくなると思うと感慨ひとしおです。

赤松　女学校らしく掃除に明け暮れて磨きがかかったその最中で学校生活を送らしていただけたことを懐かしく思い出しています。

佐々木　私のころは五十周年記念で高松の宮妃殿下がみえるという事で、白壁をペーパーで磨いたり、ぬか袋で一生懸命お掃除をしました。途中で戦争が激しくなり、学校が工場のようになり、海軍旗を作ったり軍服のボタンをつけたりで授業はほとんどなくて、五年生になると動員で工場の方へ行きました。

村尾　高中に入学したのは終戦の翌年で校舎は全然なく、机もなくカバンを肩から吊してその上に教科書・ノートを置いて勉強しました。二十二年高中は少し出来たものでそちらへ移り、共学になり高松高等学校になってこちらへ来た時、廊下はピカピカで土足で上がるのは我々自身も抵抗があり申し訳ない気持ちでした。ここへ来た時は机もきちんとしており非常にうれしかった思い出があります。

秋山　私の時は学区制が一部廃止され、入試に頑張ってやっと入った思い出があり誇りを持って自由に楽しませていただきました。

木村　正門・職員室の向こう側の感じが歴史のある学校だなあと思いました。今日、新校舎に行きまして私にとって高高はやはりこの校舎だったなあという気がしました。

豊田　当時は三階で屋上があり意地悪をしたり息抜きの場所となっていました。血気盛んな時ですから屋上から下を見下ろしたり、冷やかした人もいたんじゃないかと思います。

石橋　ベビーブーム最高の時で十八クラス、一クラス六十名近くで学校中が溢れているというか身の置所がないような感じでした。西校舎プレハブの増築もありそこが暑くて不幸なベビーブームだったんだなあと思ったことがありました。

間島　夏は三階が風通しがいいもので宿題をするため涼しい場所を求めましたが時間が遅くなるとも占領されてしまいました。三年は野郎組でして女生徒に評判が悪かったようでした。

■昔の学校周辺の様子について■

植田　私達の時は女子がきれいな校舎でしたから、高中の生徒さんは羨ましかったようです。鏡が「バー」と照らされ「はやくカーテンを締めて」と言った具合でした。

佐々木　集団下校で並んで帰るのが上から見ると全部見えたんです。覗くと勿論叱られます。

村尾　高中の生徒も通学の途中上を見上げたら叱られました。

植田　こちらの方が景色がよく屋上へ上がると屋島もよく見えました。よしず張りの蚕空教室が出来、日の丸弁当を食べて全校生徒が、英語の歌はいけませんので万葉のうたなどを朗詠しました。

佐々木　戦争中は校門を入ると無言で、お喋りがしたいのに出来ず、手まねで笑った思い出もあります。上級生に対してはとても礼儀正しく外で会っても目礼をしました。

木村　ぼくらの頃は暗い男子組・溢れ組が出来、フォークダンスをしても溢れる、又落ちこぼれの方だったので相手にされない情けなさがありました。

村尾　小学校の頃から男子組だったので共学になっても女生徒と勉強するのは抵抗がありましたね。

木村　あの当時は運動会にしろ日赤から見られるという感がありましたね。

植田　私達の時は横に知事公舎があり、日赤もなくて見下ろされるところはなかったです。

豊田　39～40年頃四階になり屋上がなくなりました。33年県庁舎が出来外まわりの様相ががらっと変わりました。騒音はあまり感じなかったです。

村尾　昭和二十年代は高中、県女とも運動が強く体育館で県下の試合がよくあり、応援もしがいがあり青春はあの体育館の中で過ごしたように思います。高中は入学式を県女の体育館でしたんですよ。

木村　中庭の大きな楠は最初からありましたか。銀杏があったように思いますが。

赤松　入学した時は必ず楠の下で写真を撮りました。あんなに大きくはなく、食堂もなく、購買部がありました。そこにパンはありました。

■三階にあった講堂について■

赤松　音楽会や猪熊先生の講演がありました。藤原義江さんも公演に来られました。

佐々木　私の時代に液体空気を持って来て水銀で金槌を作ってくれました。それから化学に興味を覚えました。その後図書館になりあまり期待したものになってなくて悲観したのを覚えています。

石橋　生徒会選挙の立会演説の野次が体育館ですごい音でした。卒業式、入学式は下級生は全員は出席していなかったようです。

間島　二つに分けてやっていたように思います。卒業式なんか市民会館でやったようですね。運動会は屋島の陸上競技場で。

木村　運動会は屋島、講堂はなくて図書館と補習科。

村尾　講堂は講堂として使い、又文化祭の時演劇なんかに使い、新校歌の発表もあそこでした。

秋山　卒業式は新体でしました。選挙の開票は講堂でしました。

■校舎と文化祭の思い出について■

赤松　文化祭というのは無かったです。男女が力を合わせてなさるのですから高高になってからだと思います。

木村　前夜祭にファイヤストーム、フォークダンスやスケアダンスもして。東大へ何人入ったとか、壁に序列が張り出された日々だったので校庭で火を焚いて騒ぐのは一番うれしかった記憶があります。

秋山　男性だけで女性は参加出来なかったので羨しかったです。

豊田　スケアダンスは屋上で練習しました。

間島　前夜祭はスケアダンスではなくフォークダンスでファイアストームがありました。

石橋　私の時はスケアダンスがありました。

植田　昼食はお弁当、時たまパンも食べましたがお弁当を持ってきてなぜパンを食べると叱られました。

赤松　焼芋をブルマーのままで買いにも行きました。

■後輩に託する一言■

植田　伝統を守って自由に伸びていただきたい。たゞ自由をはき違えないように。

赤松　伝統と誇りを持って学校の名誉を守っていただきたい。

佐々木　やはり先輩達が築いてきた百年にも及ぶ伝統は大事に守ってほしいですね。

村尾　もう少し運動にも力を入れていただきたい。体育館落成の時の校歌斉唱の声が小さかったが。

秋山　伝統ある学校を引き継ぎ、独立自主の人間になってもらいたいと思います。

木村　高高出身の誇りを持ってそれぞれの分野で立派な人を目指してやってもらいたいです。一度甲子園へ出てもらいたいですな。

豊田　勉強・運動いっしょに伸ばしてほしいです。

間島　文武両道の高高の自負を持ち、一生付き合える親友を作ってほしいと思います。

（どうもありがとうございました。楽しく、又、有意義な座談会だったと思います。）

■同窓会館への期待について■

植田　申し込めばすぐ貸してもらえる組織にしてもらいたいです。

木村　ホールと和室と会議室があり生徒達が部活も出来るのですね。

赤松　卒業生で文化的活動をなさっている方の講演、音楽会など開いたりする機会もあったらいいです。

豊田　在校生と卒業生の接点の場所という使い方もあります。

村尾　資料館が無いので和室の横のスペースを資料館にしては。

横田　卒業しても大手を振って来られるようにしてほしいです。

石橋　卒業生が気軽に出入り出来る所にしてほしいですね。

間島　飲食をしたり、夜・土・日曜日も大目に見てもらいたいです。

（学校の中にあるので制約を受ける訳で、使いながら妥協し皆さんのお知恵を借りながらその利用を考えていきたいと思います。）

支部会だより

玉翠会費納入にご協力下さい

多数の会員の皆様より会費の納入をいただきました。厚くお礼を申し上げます。

あらためて申すまでもなく会費は玉翠会の運営上貴重な財源であります。特に今年度からは、玉翠会館設立により、従来よりも会館の運営、維持に経費がかかると予想されますので、会員の皆様方には会費の納入について格別のご協力をお願い致します。また代議員、支部役員、職場の幹事の方々のご援助により納入額の増加につとめたいと考えておりますので何卒よろしくお願い致します。

新年度（平成３年）会費を受けつけております

年会費　１口1,000円

同封の「玉翠会費納入用紙」をご利用下さい。
振替口座
徳島　３－31115
又は
百十四銀行口座番号0078326

「文化祭の青春」をテーマに意気さかん

第八回 東京玉翠会総会

第八回の東京玉翠会総会は平成二年六月三十日、赤坂プリンスホテル・クリスタルパレスにおいて開催されました。この会報がお手許に届くころには、昭和四十二年の卒業生たちが、本年七月十三日に決定している第九回総会の準備に奔走していることと思います。

東京玉翠会は総会後に四国新聞に紹介されましたように、東京の高中会、晩翠会、高高会が昭和五十八年に合体したもので、それ以前も東京地区において、それぞれの貴重な活動記録を残してきました。その基礎が、出身地以外での同窓会としては破格の規模といわれる、現在の東京玉翠会総会となって開催しています。出席の回を重ねるたびに、故郷を離れて生活をする同期たちとのきずなが強くなるのを感じ、都会に根を降ろした先輩たちとの距離が縮まるのを感じます。特に幹事を担当した後は、各年度ともにそれが強く、東京玉翠会の存在そのものに感謝しております。

さて総会は宮井副会長の挨拶から始まり、議事である会計報告と監査報告が滞りなく進められました。そして遠路駆けつけてくださった恩師の方々と玉翠会役員の方々が紹介されました。特に八十二才になられる恒川先生は現在横浜にお住まいですが、高中部会の方々からひときわ大きな拍手が送られました。そして、塩井校長先生と井上副会長に祝辞をいただきました。平井香川県知事には、乾杯のご発声をお願いしました。

引き続き懇親会に移りましたが、司会は私たち四十一年卒業生から、NHKチーフアナウンサーである松本一路が担当し、会の進行に心良い流れをつくり出すことができました。何故か地方出身のくせに、アナウンサーなる職業が多いのも高高の特徴のようです。四十一年卒だけでも三人もいます。

総会には毎回テーマがありますが、「文化祭の青春」が今回のテーマでした。文化祭の歴史をひもといて、総会プログラム誌上にて懐かしい青春の断面を再現することができました。資料提供等ご尽力いただきました母校の先生方、ありがとうございました。また、このテーマはこの総会運営そのものであり、野町義人君率いる東京音大オーケストラの演奏や、華麗なるジャンケンゲームの企画も印象的でした。出席者全員九百名のジャンケンゲームは、企画者の予想を上回る熱気で迫力がありました。

ところで東京玉翠会といえば、売店のてんぷらやしょうゆ豆が人気の的ですが、初めて登場した豆パンが意外な好評さで全数売り切れでした。学生時代本当に身近な存在だったことがわかります。もちろんプリンスホテルに特別に頼んで職人が入りこんでつくる手打ちうどんは毎回担当が目が回るほどの忙しさで、今回も千二百食がペロリと無くなりました。

大盛況のうちに会も終わりに近づき、応援歌、校歌の大合唱となりました。

最後になりましたが、総会開催には高松の玉翠会の方々から、多大なるご協力をいただきました。この誌面をお借りして厚くお礼申し上げるとともに、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

他支部からの参加もあり盛況

第八回 京阪神支部総会

平成二年度の総会は十一月十七日（土）大阪・中之島のリーガロイヤルNCB会館で開催されました。

母校からは塩井校長先生はじめ、岡坂・高田・柴田各先生、本部からは大社・谷本・太田・今沢各副会長様、脇理事様、岡山玉翠会から河野副会長様、入船事務局長様をご来賓に迎え、京阪神の会員に滋賀・奈良・三重の方々、又、幹事同期生が高松からも参加し、二〇〇名の集いとなりました。

総会は芦原義重支部長のご挨拶で始まり、太田英章本部副会長様からご祝辞とご挨拶、塩井敏治校長先生からご挨拶と母校の近況のお話しをいただきました。ご来賓の紹介に引き続き、前年度幹事熊野勝之代表から会計報告が行われ、皆様のご承認をいただきました。

懇親会は大社ヒサエ本部副会長様のご発声の乾杯で始まり、小春日和の街並みを眺めながら、懐かしい話や、お互いの近況など賑やかな歓談の輪が拡がりました。宴の途中では、出席者中最年長の佐々木ヒサ様から健康の秘訣をお伺いするなど、会員の方々にインタビューにご登場いただき、お人柄も分かり懇親を一層深めることができました。

懇親会の終盤は、恒例により、次年度幹事の昭和三十五年卒業の皆様が舞台に集合、竹田秀道代表からご挨拶があり、引き続き、応援団OBのリードのもと校歌斉唱がなされ、伴傳副支部長のご発声の万歳三唱で締めを行い閉会となりました。

若々しくなごやかに

京阪神晩翠会総会

平成二年六月三日に阪神デパート十一階グリーンルームで晩翠会総会を開催いたしました。

例年のように代議員が早く集まり、会場の準備や色々御用意をして下さっているうちに、お懐かしいお顔が次々と受付へ、一年ぶりのお目もじに、あちらこちらで賑やかなお集まりが、はじまりました。

母校より校長先生、岡坂先生、上原先生、晩翠会本部より谷本副会長様、脇理事様が御出席下さいました。

池内様（S十六年卒）の司会で開会先づこの一年に亡くなられた会員の慰霊の黙祷を捧げ、支部長の挨拶のあと、校長先生の御挨拶があり、母校グランド改築も平成三年三月竣工、三月には旧校舎が取毀されるとか。旧校舎もS十五年卒の方々には新校舎として毎日特別のお掃除をされたとかで取毀される事に感慨一入の事と思います。そのあと今年度の大学進路の状況を伺いました。

会場の横でこの度も、東條様の御尽力で大好評のバザーが開かれました。会へも御寄付をいただきました。

今年は、大先輩でとても八十九才と思えない程お若くお元気な、佐々木ヒサ様に乾杯をお願い致しまして御昼食が始まりました。S九年卒の村尾様が日本舞踊を御披露下さいまして、会場の皆様を楽しませていただきました。

今年度の秋の玉翠会総会幹事の昭和三十四年度卒の方五人が御出席になり、十一月の玉翠会総会に晩翠会々員に是非大勢御出席をされる様にお願いされました。

最後に高女の校歌みどもあかぬを全員で合唱し、そのあと高校御卒業の方々と御来賓の先生方が、高校の校歌を合唱されまして、又来年お目にかかりましょうと一先づ閉会を致しました。

会場は四時まで使用してよいとの事で各グループで集まってお話にお名残がつきぬ様でございました。お集まりの方々百名余りで、盛会でございましたことを感謝致しております。ありがとうございました。

盛会裡に総会終了

第十二回 岡山玉翠会総会

平成二年度、第十二回総会は、去る十月六日に岡山プラザホテルで開催されました。

母校からは塩井敏治校長先生、岡坂孝子、山地正真、福家完治の各先生、本部の大社、谷本、今沢副会長、脇理事の各氏が来賓として出席されました。

校長先生からは、完成間近い新校舎への期待と、大社副会長からは玉翠会館の活用を呼びかけられ多勢の会員は熱い目さしで聞き入っていた。

今回の幹事は昭和三十四年卒業生（近藤敬司代表）でした。総会の準備段階から、本部・岡山玉翠会・母校・晩翠会阪神支部をはじめ先輩の方々からご指導とご支援をいただきました。心からお礼を申し上げます。尚、今回の準備を通して同期生の交流が一層深まり同期会の活性化を図ることになりました。有難うございました。

寄贈図書目録

平成2年度

◎東京玉翠会
「宮本常一集」（全43巻）未来社
「東洋文庫（日本の古典）」（10冊）平凡社
「東洋文庫（日本の風俗と社会）」（13冊）平凡社

平成二年度 理事会及び代議員会

平成2年11月19日（月）13時より、14時まで校室にて理事会が行われた。玉翠会館披露の集い、記念祭等について審議された。次に玉翠会館利用規程について原案が出され承認され、当分の間、暫定的に運営してみることに決まった。又、真鍋監事の後任に、岩部隆氏（昭18卒）が決定。各部会より百周年記念誌編集委員が次のように選出された。

高中　渋谷　晴美、中村　通夫
県女　脇　和子、安達恵美子
高高　植田正太郎、村尾　宗政
　　間島　賢治、中村　敬子
定通　玉木　勲、南　繁文

引き続いて14時30分から会議室で代議員会が開かれた。今回の主な議事は平成元年度会計決算報告、同監査報告、平成二年度予算案審議、会務報告であった。玉翠会館建設工事進捗状況（平成3年1月15日竣工予定）について塩井敏治学校長から説明がなされ、続いて永窪教頭より落成記念行事実行委員会報告がされた。玉翠会館利用規程等、理事会より提出された議案は全て快く代議員会で承認された。最後に福家教諭により創立百周年記念事業企画委員会報告がなされて閉会となった。

玉翠会館使用規程

玉翠会館は、玉翠会員があい集い親睦を深める場とするとともに、在校生の教育活動や文化活動の場を提供することにより、母校の発展に貢献するために建設し、玉翠会が県へ寄付採納した施設であるので、その趣旨にそった使用を行う。

1 使用の施設

ホール（定員㊌名　間仕切りによって2分割使用も可）
会議室（定員20名）
和室　2室（定員　各㊐名　1室としての使用も可）
〔冷暖房　エレベーター、移動式ステージ、放送機器照明設備等あり〕

2 使用者の資格

(1) 玉翠会員又は香川県立高松高等学校の職員及び生徒
(2) 教育関係団体又はそれに準ずるもので、学校長が特に使用を適当と認めたもの

3 使用期間及び時間

(1) 使用期間　1月4日から12月28日まで
(2) 使用時間　午前9時から午後5時まで

学校長が認めた場合はこの限りでない。

4 使用申込み

(1) あらかじめ所定の申込書を会館責任者に提出すること。会館責任者は、使用目的・内容等を検討し、許可書を発行する。
(2) 申込み受付は、平日の午前10時から午後4時までとする。但し、土曜日は午前11時までとする。
(3) 使用申込み以後の変更及び取り消しは、前日までに会館責任者に申し出なければならない。

5 使用上の注意

使用者は当会館が校舎内にあることに配慮し、次の事項を守らなくてはならない。

(1) 使用開始及び終了後に、会館責任者に報告すること。
(2) 施設・器物を汚損、損傷しないように留意し、終了後はもとどおりに後始末をすること。
(3) 万一汚損、損傷があったときには使用者で弁償すること。
(4) 危険物その他、教育上好ましくないものの持ち込みはしないこと。
(5) 所定の箇所以外の柱、壁等への貼紙はしないこと。
(6) 火災、盗難の予防にとくに注意すること。
(7) 駐車場がないので、自動車での来館はできない。
(8) 教室・廊下など、許可施設以外の場所には立ち入らないこと。
(9) その他教育上好ましくない使用は慎むこと。

上記(1)〜(9)に違反したときは、使用中止をお願いすることがある。

この規程は、平成3年4月1日より実施する。

玉翠会館維持費

(1) 玉翠会員、PTA会員、職員生徒の諸会合に利用する場合、ホール等の維持費は免除する。ただし、冷暖房等の電気料は納入しなければならない。
(2) ホールの舞台照明、音響設備を使用するときは、電気料実費を納入する。
(3) ホール：定員500名　机を使用するとき　定員210名
また、間仕切りにより2室（A・B）として使用できる。
和室：襖で2室（A17・5畳、B22・5畳）に間仕切りできる。

維持費

室名	午前 9:00〜12:00	午後 13:00〜17:00	冷暖房（1時間）	舞台証明（1時間）
ホール	4,000円	6,000円	1,500円	320円
ホールA B	2,000円	3,000円	1,210円	
和室	一般への貸し出しはしない		150円	
和室A B	〃		80円	

上記の維持費は、平成3年4月1日より当分の間、暫定的に使用者にお願いするものとする。

昭和の校舎に思いを込めて

文化祭．昭和の校舎を送る集い

文化祭の思い出

平成2年9月15・16日の第40回文化祭は旧校舎での最後の文化祭として記念すべき思い出深い行事となるよう企画され、過去・現在・未来の3つの時代が共演する文化祭となった。校舎記念企画では同窓生より色々資料を集め、昭和16年当時の授業をモチーフとして生徒達が模擬授業を行い多数の同窓生の好評をはくした。又「玉翠会休憩室」が同窓の方々により設けられ、季節の花を飾り、壁にかけられた佐々木熙子様（昭22卒）の見事な絵筆による「制服の変遷史」の絵が、立ち寄った多くの卒業生の目を楽しませました。生徒会により「思い出ノート」が置かれ、訪れた卒業生が色々な想い出を書き記したりして、在校生と共に文化祭に参加した旧校舎最後の忘れられないひとときとなりました。

昭和の校舎を送る集い

三月八日の卒業式の午後、生徒会主催で、在校生、同窓生共々、学問の場であり、種々の青春の場であった昭和の校舎と最後の名残りを惜しむ集いを催しました。

生徒の撮影した「思い出の校舎」の上映や、吹奏学部による演奏会が行われ、最後にタイム・カプセルに、在校生、同窓生の色紙が納められた。多くの卒業生がかけつけ、この回限りで封鎖される思い出深い校舎に最後の別れを告げた。

関口玄子さんコンサート

三七会の手づくりで

平成3年1月9日、ミューズホールに於いて関口玄子さんのコンサートが、三七会を中心とした同窓会による後援で行われた。運営・司会・接待など、会員手作りで準備が行われ、あたたかい雰囲気の中、満場の聴衆は歌声に酔いしれた。

このコンサートは本校三年卒業で上野学園大学音楽部卒業後、三年前よりミラノに留学されている、関口玄子さんの帰国記念として行われたもの。ぜひ関口さんのコンサートを地元で、との声に三七会が応え、会場決定から、運営計画の作成、当日運営等、同窓生によって実施された。

当日は、塩井校長や諸先生方の姿もみえ、駆けつけた同窓会員は、美声の余韻の残る中で、旧交を暖める姿がそこかしこに見られた。

平成2年度名士講演会

—西村秀俊氏を迎えて—

十一月三十日（金）、本校の昭和二十九年度卒業生で、現在朝日新聞社AERA編集長として活躍されている西村秀俊先生を迎えて講演会が開かれた。

今回の講演は西村先生が高松市主催のコミュニティーカレッジに講師として招かれたことを機に実現したものである。

講演の主題は「二十一世紀に生きるあなた方へ」。私たちが社会で生きていくために必要なことについて、数々のエピソードを交えながら熱心な口調で語って下さった。

講演の後、希望者による質問の場が設けられ、そのひとつひとつに丁寧にわかりやすく答えていただくことができた。

私たちの将来への生き方を教えてくれる貴重なお話を聞くことができ、大変有意義な講演会となった。

部活動の活躍

平成二年度も、我校の運動部、文化部は健闘し、数々の栄誉を手中にした。その中でも全国高校総体のヨット女子FJ級7位、国体女子やり投げ8位、選抜大会漕艇女子シングルスカル2位、NHK杯全国高校放送コンテスト優秀賞等は、特に輝いている。

▽全国高等学校総合体育大会出場選手
陸上競技部　近沢一友　上原　裕　大杉一隆　藤井一博　藤井千晶
フェンシング部　増田浩城　黒川裕文　城山麻美　須藤育子
ヨット部　元木千晶　藤野亜樹
登山部　桑島朋子　滝川祐子
真鍋由希　鈴木富美子
漕艇同好会　鎌野宏紳　野崎一朗　中田健次
水野　聡　松下貴彦　中原健一

▽第45回福岡国体出場選手
陸上競技部　藤井千晶　上原　裕
フェンシング部　大塚純司　山田勇起　須藤育子

▽全国選抜大会出場選手
フェンシング部　後藤正幸　吉田哲也　岡本佳樹
神保茂雄　上杉芳彦
漕艇同好会　谷口美穂

▽全国定通総体出場選手
陸上競技　道地紀子
卓球　帯包道夫
軟式庭球　依岡竜仁　中村高雄
柔道　上佐利夫
剣道　藤沢賢也

▽NHK杯全国高校放送コンテスト出場者
東山真理　繁岡未紀　佐藤三枝
古市久美子　松下幸司

▽全国高校囲碁選手権大会出場者
北村直也　菅沼恒久　植村　健

▽全国高校将棋選手権大会出場者
永岡　直　植地孝明　家常雅史

人とキカイのことを考えている会社です

TADANO

幸せと感動を伝える創造企業
株式会社 タダノ
取締役社長　多田野　久
〒761-01　高松市新田町甲34番地　TEL0878(39)5555(代)

平成三年度 玉翠会役員

（敬称略）

会長　綾田整治
副会長　井上房一・大社ヒサエ
谷本文子・太田英章
今沢暉子

高中部会
理事　永井啓・広瀬実
植田穣・丸山修
加藤達雄・大西潤甫
内海義夫　三宅俊三
監事　岩部隆

晩翠部会
理事　陶武子・湯浅美恵子
松房カズ子・伊藤卓子
真部隆子・形見米子
尾形カズエ・脇和子
喜岡英知子・大久保和子
監事　安達恵美子

高高部会
理事　相谷勝一・平井温子
水野道代・村尾宗政
都村忠弘・古竹久雄
前谷三・白井治
横谷敬昌・竹林浩朗
谷本勉・小松重貴
赤松和彦・豊田章二
徳永孝明・国東照美
吉岡哲朗・村井恵子
中山隆司・多田幸生
中村秀明・中村谷年威
松本敏裕・間島賢治
玉木勲・南繁文
田中忠・斉藤幹雄
監事　前田道正
顧問　岡野美代子

高中部会
十八回　松岡正樹
二〇回　片桐義豊
二一回　井上謹一郎
二二回　川口観蔵
二四回　那須　孝　堀池利夫
二五回　武田隆義
二七回　河西源吉
二八回　中野美彦　井川佐平
三〇回　大山省三　岡野敏雄
三一回　神辺隆之助　葛西重雄
三二回　漆原英孝　香川和夫
三三回　村尾穂積
三四回　森慶太郎　松田和夫
三五回　松本　彰　乃村善秋
三六回　松崎　剛
三七回　土岐　進　乾　隆
三八回　北村愛吉　中澤　馨
三九回　大島久俊　芳　一徳
四〇回　小夫格之助　大高保一
四一回　渡邊正信　小西行三
四二回　木村正身　平井　実
四三回　多田羅徳夫　成瀬　裕
四四回　田村　弘　古川静夫
四五回　平井城一　山形　諶
四六回　竹内　正　玉津島照雄
四七回　横田資文　木村芳正
四八回　旦下千賀　泉川孝平
四九回　山田幹雄　津島正弘
五〇回　木内正夫　渡邊典雄
五一回　堀家保男　黒田昌男
五二回　岡　観隆　細川孝士
五三回　増田照夫　谷川一典
五四回　河野　猛　山下哲弥

晩翠部会
大三　久米シヅ　細谷ヒデ
四　上枝八重子
五　加地　蝶
六　漆原　八　中野菊子
七　小沙澄子
八　河合　力　藤原富美子
九　岸本哲代
一〇　神谷政栄　旦下花子
一一　久保田チヨ　宮脇千代
一二　大川キノ　廣田タカ
一三　明石ヨシエ　籠野悦子
一五　秋山智恵子　岡内一江
松浦ヒデ

昭二　池上貞子　北谷マチ子
三　筒井　薫　大西ヨシ子
小松トミエ
四　綾田絹江　松原利子
五　古市ウタ　杉内　武
六　逸見静子　香川幸子
七　国宗博子　逸見光子
八　河田スマ　鈴木タツエ
九　穴吹武子　杉山清子
一〇　太田光子　渡辺綾子
鎌田静子
一一　香月フミ　合田千代子
一二　丸尾喜美子　中村美恵子
一三　久米八寿子　武下小夜子
四　半田美枝子　平井貞子
五　植田澄子　藤田幸子
六　北村愛子　松田久子
七　高木敬子　山田恵子
八　滝口清子　桜又フミエ
九　岩井美智子　川河信子
二〇　秋山多美子　木村富美子
二一　加藤鎮子　上原美智子
二二　佐藤恭子　神谷順子
二三　松田郁子　西尾信子
二四　伊藤悦子　矢野坂愛子
女子高　水野綾子　岡部澄子
二四　槙塚安得　片山繁子

高高部会
昭五　小橋以宜　大西正純
櫛村和子　佐藤喜孝
一六　植田正太郎　平井一郎
河西慈子　難波文子
一七　入倉　満　千葉孝正
高関隆子　相谷美智子
一八　福田隆宥　関谷聡子
鶴川舜一　植田京子
二九　熊善一郎　中村敬子
漆原英子　大川　明
三〇　末澤　進　松原　剛
土居君枝　中山裕子
三一　岡崎勝一　星川美智子
真鍋恵子　伊勢伊佐牟
三二　大林義和　太田　質
大塚順子　日野弓槻
三三　岡崎　進　上野文夫
八代紀子　横井侑子
三四　塚本　僥　藤井照芳
佐竹睦子　加藤祥子
三五　高瀬　孝　大西大介
笠井ミヤコ　谷本明子
三六　千切谷多一朗　鎌田基志
岡田佳代子　飛田久子
三七　山内康生　後藤伸雄
松尾久美子　三宅加代子
三八　新藤勝利　高関忠三
小笠原ユキ子　小松利子
三九　大和田昭典　尾崎正澄
嶋田利子　蓮井愛子

平成三年度 玉翠会代議員

高中部会
四〇　角田朝則　真屋正明
四一　西尾道子　古市恵子
立野省一　香西幸夫
四二　牟礼　明　松山千恵子
平井大資　海部泰夫
十河繁代　石橋真知子
四三　池田紀治　上野卓一
堀家みどり　笹木邦子
四四　小河雄磨　井上　哲
重松佐栄子　前場明美
四五　笹島啓豊　神原賢治
穴吹恵美　神内幾代
四六　鎌田順一郎　図子　泰
飯間康代　長嶋佳子
四七　嶋村　昭　寺師明美
小坂真知子
四八　岡　永一　泉　暁美
渡辺雅子
四九　佐伯由久　福田安伸
久保睦子
五〇　篠理仲一　横山忠則
久保順子　浜崎泰子
五一　神内正信　和田知文
斉藤信男　真鍋裕司
五二　干野みゆき　大石伊都子
五三　吉田守秀　岸田光哉
吉川正美　松下節子
五四　細川雅子　藤野勢津
渡辺和典
五五　江見義健　久保　史
伊藤敦子

五六　藤沢昌弘　高木美穂
出射恵美子
五七　井上盛俊　辻　篤
関美地子
五八　宮脇　森　藤谷良太郎
大谷千津　由良　琴
前野勝彦　坂本耕一
五九　久米寿美子　高木美香
下地崇弘　大西邦彦
六〇　増田美彩　半田富美
篠澤康一朗　小野寺博
六一　林　弘恵　筒井智子
六二　西口　敦　篠原隆司
桑島利江子　香西由美子
六三　池田康之　三好啓介
佐藤　晶　上原恵奈
六四　滝口英城　矢野菜々子
平元　富岡貴美　片岡和美
平二　三好　亨　前谷孝妙
千切谷耕一郎　河端千裕
平三　世保賢一　井上直人
西谷暁子　木田いずみ

定通部会
宮脇　稔　安部ツタ江
頼意美徳子　森部正義
中山敏男　大麻悦治
松原昌行　田渕　薫
三野順子　木村彰秀
吉岡貴司　泉　和男
大川　誠　道知紀子
田中和昇　網谷徳子

平成三年度大学合格者数

1．国・公・私立大別合格者数

学校名	平成3年
国立大学	
北大	5
北教大	1
東北大	3
秋田大	1
筑波大	4
埼玉大	2
千葉大	1
東京大	12
東京外大	5
東京学芸大	4
東京農工大	2
東京工大	5
東京商船大	1
お茶水大	3
電通大	1
一橋大	6
横浜国大	9
福井大	1
信州大	6
静岡大	3
名古屋大	3
滋賀大	1
京都大	19
阪大	21
大阪外大	3
大阪教育大	2
神戸大	25
奈良教育大	1
神戸商船大	1
奈良女大	5
鳥取大	1
岡山大	43
広島大	44
山口大	1
徳島大	13
鳴門教育大	8
香川大	74
香川医大	5
愛媛大	15
高知大	2
高知医大	3
九州大	11
鹿児島大	1
合計	377
公立大学	
横浜市大	2
東京都立大	2
都立科技大	1
岐阜薬大	1
静岡県立大	1
愛知県立大	1
京都府立大	1
大阪市大	3
大阪府大	6
神戸市外大	4
神戸商大	3
奈良県医大	1
下関市大	1
高知女大	2
北九州大	6
長崎国際大	1
合計	36
私立大学	
青山学院大	6
学習院大	3
共立女大	2
慶応大	35
国際基督大	2
駒沢大	2
芝浦工大	4
上智大	12
昭和女大	4
専修大	6
多摩美大	1
中央大	15
津田塾大	5
東京女大	8
東京理科大	22
日本大	5
日本女大	10
明治学院大	10
立教大	5
早稲田大	4
京都外大	40
京女大	6
京薬大	18
同志社大	1
同志女大	41
立命大	5
大経大	64
大工大	2
関学大	4
関西医大	36
関西外大	2
近畿大	3
関西学院大	9
甲南大	28
神戸学院大	6
神戸女学院大	11
神戸女大	2
ノートルダム清心	2
合計（その他とも）	585

2．平成3年3月 国・公・私立大学別合格者数

学部	文外語社会	法政治	経済高	理	工	農林水産	医	歯	薬	家政	教育	芸術	その他	合計
人数	213	148	191	41	194	14	37	4	20	28	83	6	19	998

創立一〇〇周年近づく

昨年発行の玉翠会報でお知らせをしました「創立一〇〇周年」の記念行事は、本年四月に入学した生徒が三年生になった平成五年に実施予定で、いよいよ間近になりました。

この記念行事は、本校に関係した者だけの内輪の催し物でなく、県下高校の歴史の節目になるものでもあります。

平成元年に発足しました一〇〇周年行事企画委員会は、玉翠会やPTAなど各方面のご指導をいただきながら、学校訪問の機会を利用して、すでに一〇〇周年記念行事を実施している本校規模の全国の高校より、多くの情報を収集しました。これらの資料やご意見をもとに、計画案となるものを校内の企画委員会で案し、玉翠会の役員などで検討していただいております。こんご具体化される計画の内容は、役員会などを通じてお知らせします。各方面でご活躍の全会員のご協力をお願いします。

なお、記念誌の編集作業はまもなく始まります。各会員のお手元に本校の歴史を語る写真、教材、資料、情報等がございましたら、本校内の企画委員会までご連絡くださいますよう併せてお願いします。

（連絡先　福家　完治）

平成2年度 物故者

高中部会
中川　完（50回）真鍋善雄（25回）
黒笹正三（25回）西岡規矩夫（25回）
宮脇長定（38回）三笠　猛（39回）
三木正隆（39回）細谷繁好（41回）
三村　肇（47回）滝本正義（33回）
岡見吉彦（48回）横田康夫（39回）
植田吉男（41回）中村由信（49回）
藤沢重信（41回）漆原　亮（38回）
谷川　豊（38回）福田孝重（35回）
矢野宏太郎（35回）中北一喜（37回）
藤井恭一郎（37回）赤沢光雄（37回）
高谷良見（37回）

晩翠部会
瀬尾文子（S13）和田シゲノ（S8）
大須賀ミサ（T12）高田多賀（S8）
今村富美子（S20）(5)大野一鶴子（S8）
二宮椒子（S11）竹内　孝（T13）
久本貴美子（S5）南　泰子（S23）
浮田敏子（S4）富山ヒデ（S6）
宮本勝子（T12）武田　寿（T10）
塩田延（S11）宮木久美子（S20）(5)
白井タカ子（S20）(4)三宅洵子（S20）
清水加寿（S8）須藤泰子（S4）
小川みさ（S2）浜田ソノ（T9）
木村佳子（T12）西原房子（S8）
溝渕直子（T15）藤本千代（T15）
平尾文子（S16）松本順子（T2）

高高部会
田中喜美雄（S27）佐々木正明（S30）
森　安子（S35）石垣靖子（S26）
酒井恒幸（S27）大熊節子（S27）

旧職員
大熊好隆
西沢日出夫
出渕信明
上田晩雲

玉翠会事務局（高松高校内）

本部

会長　綾田整治
副会長（高中）井上房一
副会長（晩翠会会長）大社ヒサエ
副会長（晩翠）谷本文子
副会長（高高）太田英章
副会長　今沢暉子

支部

（東京玉翠会会長）大島　功
（事務局）大西昭一郎
（高中）宮井仁之助
（高中事務局）大西　貫
（晩翠）松浦三知子
（高高）多田野　久
（玉翠会京阪神支部長）芦原義重
（事務局）槙野密雄
（高中）伴　傳
（晩翠）馬場幾与子
（岡山玉翠会会長）辻　孝夫
（事務局）入船健一

会費納入ありがとうございました。

平成2年度　玉翠会会費納入状況

平成3年3月30日迄　合計　2,923,500 円

高中部会 回	人数	金額	高中部会 回	人数	金額	晩翠部会 回	人数	金額	晩翠部会 回	人数	金額	高高部会 回	人数	金額	高高部会 回	人数	金額
23	2	10,000	47	26	48,000	M45	1	1,000	12	71	109,000	25	11	17,000	47	9	11,000
24	2	2,000	48	16	22,000	T2	1	1,000	13	28	38,000	26	41	52,000	48	3	5,000
27	2	3,000	49	70	76,000	3	2	2,000	14	80	82,000	27	40	45,000	49	3	3,000
28	2	6,000	50	56	66,000	5	2	2,000	15	30	30,000	28	38	50,000	50	9	9,000
29	7	28,000	51	11	13,000	7	3	3,000	16	16	17,000	29	22	32,000	51	4	4,000
30	2	3,000	52	2	4,000	8	3	24,000	17	31	32,000	30	13	19,000	52	7	8,000
31	2	2,000	53	8	25,000	9	2	2,000	18	55	58,000	31	13	15,000	53	12	13,000
32	3	12,000	54	11	23,000	10	2	2,000	19	41	61,000	32	16	31,000	54	12	14,000
33	2	3,000				11	4	4,000	20(5)	38	40,000	33	21	31,000	55	6	9,000
34	7	10,000				12	6	10,000	(4)	24	41,000	34	12	15,000	56	8	12,000
35	5	5,000				13	5	7,000	21	45	48,000	35	67	80,000	57	5	5,000
36	5	5,000				15	34	36,000	22	15	16,000	36	93	116,000	58	9	11,000
37	15	78,000				S2	4	4,000	23	70	80,000	37	8	11,000	59	5	5,000
38	54	58,000				3	6	10,000	24	13	13,000	38	16	21,000	60	10	16,000
39	14	16,000				4	26	51,000	女子高	15	15,000	39	13	13,000	61	5	5,000
40	9	11,000				5	14	14,000				40	12	23,000	62	17	35,000
41	45	94,000				6	33	33,000				41	14	23,000	63	17	24,000
42	15	26,000				7	20	22,000				42	7	7,000	H元	29	47,000
43	12	31,000				8	49	62,000				43	9	14,000	2	44	51,000
44	13	15,000				9	14	14,500				44	25	30,000	定	5	10,000
45	67	88,000				10	64	72,000				45	7	9,000	通	21	27,000
46	42	54,000				11	35	36,000				46	8	16,000			
合計		837,000 円				合計		1,092,500 円				合計		994,000 円			

平成元年度　玉翠会会計収支決算書

＜収入の部＞

費目	金額
前年度より繰越金	16,955,073
高中部会会費	809,500
晩翠会会費	984,230
高高部会会費	977,000
入会金(全.定.通)	1,514,200
広告料	100,000
名簿代金	120,000
受取利息	789,391

＜支出の部＞

費目	金額
支部総会お祝	400,000
支部総会旅費	540,742
慶弔費	204,854
会議費	122,962
玉翠会報発送手数料	59,578
印刷代	282,960
学校助成金	267,500
玉翠会職員給与補助金	941,193
卒業生記念品代	144,967
郵送料	293,730
転退職記念品料	124,500
メンテナンス	103,000
消耗品	8,149
雑費	4,240

収入合計　22,249,394　　差し引き合計　18,751,019
支出合計　3,498,375　　次年度繰越金　18,751,019

平成2年度　玉翠会会計予算案

＜収入の部＞

費目	予算額	摘要
1 繰越金	18,751,019	
2 玉翠会入会金	1,500,000	高中90万 晩翠100万 高高(定通含)110万
3 玉翠会会費	3,100,000	
4 広告料	100,000	
5 名簿代金	100,000	
6 雑収入	748,981	預金利息
計	24,300,000	

＜支出の部＞

1 本部運営費	2,900,000	
玉翠会運営費	450,000	
慶弔費	400,000	
玉翠会報発行費	400,000	
創立百周年準備費	500,000	
メンテナンス	150,000	
職員給与	1,000,000	
2 支部運営費	850,000	
支部総会お祝い	250,000	
支部総会旅費	600,000	
3 卒業生記念品料	200,000	
4 学校助成金	500,000	
5 予備費	700,000	
6 次年度繰越金	19,150,000	
計	24,300,000	

平成二年度 会費納入者

高中

二三回　芦原義重　津坂宗一
二四回　漆原滋雄　藤本静夫
二七回　河西源吉　那須高之助
二八回　井口貞夫　井川佐平
二九回　綾田整治　三井義兵　石村重一　亀井弥三郎　吉岡述直　岡宏
三〇回　大山省三　岡野敏雄
三一回　横江文鈴　神辺隆之助
三二回　石黒秀一　高崎利彰　伴傳
三三回　対馬一郎　青木禎三
三四回　真谷福吉　宮重左都夫　川西和夫　井上潔　秋山恵一　遠山春雄　井上寛
三五回　農田国雄　松本彰　大島功　中村一郎　金谷省也
三六回　横田政信　木村芳樹　橋本崚　國井秀行　松房実
三七回　大往義規　久本更一　宗本徳禅　井口新一　清水靖夫　春山善良　村瀬菊夫　山城敏夫　乾隆　山田正秀　塩田雄一　小松荘一郎　中北一嵩　藤井正治　山中堅造
三八回　平野勝見　横手位　渡辺信義　山口勇　大山春雄　大西靖彦　池田武夫　十河正義　吉田正伍　中嘉一郎　浅田忠雄　市村康夫　久能長之　平田清高　福家正　前田勇嵩雄　水谷忠彦　山内雅夫　井上房一　江崎武　黒笹正三　杉野秀　都崎正蔵　古市清　猪熊文炳　入谷正太郎　天雲浩　平田希典　橋本富男　小田辰春　藤田猛　北村愿吉　山本正敏　漆原亮　間野外次郎　千切谷博　白井諒一　谷本英孝　久米敏夫　長尾武敏　広瀬富夫　香川真一　山崎隆義　小笠原重夫　樫村昭典　谷川豊　久保勝　浜田兼男　岡田久　大浦絢三　川田清徳　橋北入　兎子尾正四郎　佐藤良逸
三九回　頼宮龍太郎　西村長安　佐藤信次　桑島俊之　大宮克巳　今澤章平　毛利泰敏　芳一徳　三笠猛　中西農夫男　香西良彦　青井正親　溝内正次郎　井上富士一
四〇回　稲本洋　松田正憲　安川正清　長内正　中川弘　永井啓　高橋敬一　小夫格之助　宇多田一郎
四一回　高岸正剛　池知章信　吉尾直純　木村嘉雄　山下晃　阪根義雄　陶義則　半田俊　亀山憲一　吉峰喬　遠藤正男　瀬尾清　広瀬実　久保仲之介　遠藤正男　大井霊源　福家文吉　尾形康彦　渡谷時美　松原範幸　高松美一　松本定義　葉原幸男　発天雄　二郎　植松大　細谷繁好　金滝憲次郎　塩田文彦　高橋良平　渡辺正信　池本正治　多賀謙次　今竹義一　多田雅昌　三枝勝治　吉峰義　野口吉美
四二回　安藤武　高原功　和田康平　野崎康夫　大喜多直行　辻義　谷欣一　松岡健一　徳田元　木村正身　吉峰泰夫　内山久夫　三好久雄　荒木襲　飯島喜太郎
四三回　岩田春雄　秋山雄　中尾智三郎　伏谷清美　武田純三　中潟三郎　村井進　岩澤靖　松田正策　成瀬裕　下津集一
四四回　大西青一　橋本経吉　太田怜　穴吹俊克　高木英典　木下薫　若松弘　古川静夫　野崎博通　宮井七之助　七條真知　難波重明　間島渡三郎
四五回　平井城一　八木一雄　十河京一　西尾利雄　細谷栄一　蓮井淳　山地一幸　土居喜美男　大西克仁　脇谷秀夫　瀬尾勝　善本忠信　岡内敬三　三島正男　山形誠　中村寛　桜又正之　中村正也　川西健次　木村正　大西正雄　小田道紀　浅田清一郎　伊藤泉男　上原明正　大西一郎　大西孝道　加島健　梶原富一　片山義郎　川崎正明　川田純一　河西三省　木内典雄　木村勝雄　木村喬一　木村裕　花崎政美　国重章　栗原忠義　黒田万　佐賀佐々木茂　白井潔　大黒喜明　佃晋太郎　辻斉　寺島正　朝中路勉　中西一雄　中野曽夫　長原正道　野綿健三　浜畑清　原内明　久本祥次　細谷栄一　丸尾澄夫　宮崎正雄　宮武八郎　宮本哲　三好義則　若宮泰雄　渡辺晃　伏見章　植松守雄　原寿
四六回　加藤達雄　藤沢亨平　川地保男　山下曠登　日下輝雄　蓮井良憲　万壽富雄　西村好隆　中川正　高橋玄一　広瀬敦　福家幸二　堀裕　市原薫　河本和友　冨永信長　村瀬章俊　松谷昌平　村上都夫夫　武法顕　山本脩　宍川一成　矢野淳滋　黒川義剛　久保皖美　藤岡寿美夫　太田正臣　玉津島照雄　竹内正　辻秀司　横田万年　葛西義徳　赤沢俊一　市原薫　小島敏夫　佐浩博一　広瀬勲　古市正俊　山下曠登　山田欣一　藤井勲
四七回　吉田義明　藤原直道　多田章　木村芳正　小田修　新名恭三　佐伯宏和　永松洋　仲西弘孝　後藤謙夫　石川通達　辻郁俊介　宮武孝明　原内平　白川正健　横田登文　稲井健三　大西潤用　水野三男　入谷喜雄　塩田冶雄　松野隆明　中山孝　猪熊忠雄　板坂喜一　中山孝
四八回　長尾初次　岩瀬敬治　三好光春　武井光雄　宮田和信　中村三雄　西村周郎　森口隣　松原義治　中山佐明　日下千智　東原修　泉川孝平　新田忠夫　岩部隆　森幸夫　田中敏明　吉武秀夫　蓮井玄昭　安達照　八木享　土屋康生　稲井正　橋本通　赤木茂樹　深田齊通　笠井康男　大宮幸久　小比賀正範　河西正充　徳田敬真　松浦啓一　青木仁　朝倉樹　秋山博　綾延明　飯原秀一　猪熊精一　樫村雅義　打越祐　浮田敏男　浮田裕幸　遠藤利三郎　大熊正猛　岡田良和　岡見恭一　佐藤哲夫　川田忠雄　加藤義治　北島千里　久保敏夫　幸田浩美　佐野忠一　繁谷雄　末澤敏雄　十河實　竹内昭一　中條有夫　対馬恭三　津島正弘　寺島市昭　田村政文　中村一夫　根本栄記　馬場元博　原田通　蓮井勝實　畠山武史　半田昭夫　藤沢賢吉　藤本弘　日置豊明　北条子一　細川浩　松島久男　松浦清士　丸尾琢磨　森博直　森忠者　山田幹夫　山田薫　山田登　安岡正嵩　今坂晃　佐竹孟宏
五〇回　入江隆夫　武田啓一　堀家勇　若松昭一　中川允男　久保孟夫　三宅俊二　伊賀義範　山口悟　中村信一郎　安部宏　青木和行　綾田久輝　井上勉　上枝健男　上田俊彦　白井弘　内海義夫　大住寛　大津新平　大林敏　岡本忠夫　片岡一夫　木田義彦　木内正夫　木村健　岸本良司　北谷正夫　小汐正三　佐吉一郎　十川晋　多田照　田中博　太麻博美　高橋利武　竹部英鉞　谷川啓一　徳田稔　中村文俊　乃村敏二　橋本光夫　蓮井昭　浜坂猛　林元輔　廣瀬宣夫　藤井国夫　前田輝夫　柳田茂和　和田裕　渡辺典雄　弾正原弘康　山口俊　川上美秀　角陸俊明　山地豊　徳水治夫　原田房佳
五一回　奴賀直　蒔田敏明　松村嘉高　黒田信男　真鍋幹隆　大熊繁二　増田正美　大久保信行　佐々木博　塩田良弘　冠野盛男
五二回　林政治郎　香川正信
五三回　安倍正博　十川省治　穴吹茂　増田照夫　壷井正　山崎弘　香川信　吉松友比古
五四回　桑田昭夫　高重雄　戸澤清行　山西一水　山下哲弥　中條利祐　藤本孝雄　佐々木静雄　四宮茂　堀田一義　宮西孝二

晩翠

M四五　植村操
T二　飯島サダ
T三　緒方ハナ　合田艶子
T五　村瀬秀一　石川ヨシエ
T七　小汐凌子　鐵田重子　松尾ヨシエ
T八　小西満寿江　宮井静子　河合力
T九　松村マサ　岸本哲代
T一〇　間宮興　細田艶子
T一一　堀川千代　星野奈美　宮脇千代　津田ジュン
T一二　上川ヨネ　井口クニエ　大川キノ　廣田タカ　河西ハツエ　湖崎植子
T一三　引田清江　小汐逸子　明石ヨシエ　岡田清　鎌野順
T一五　河野幸　野瀬弘　赤坂俊子　本河章　岡田明江　吉馴ひな　家高美重子　植松貞子　宮原照子　下條孝子　児玉利子　秋山智恵子　片岡ミサヲ　大塚富美恵　山根チルミ　片山清江　岡内一江　小林緑　高尾ツヤ　溝川藤子　太田秀子　三好幸　松浦ヒデ　今田フジエ　恵美綾子　宮武須寿子　山本トミエ　宗国キヨ　中原貞　岡みの　対馬勝子　遠藤登茂　倉田キヨエ　横川久子
S二　福本暢　久保通子　井上吉　池上貞子
S三　木村朱江　荒川トミエ　小笠原芳子　矢波静子　筒井薫　小松トミエ
S四　村川艶子　浦城香代　伊賀カズエ　横井キミ　渡辺ヨシ子　柳瀬綾子　永田夏子　浜田敏江　須藤泰子　植田順子　片岡歌子　木曽益子　綾田絹江　高木節子　唐渡愛子　藤井花子　郷渡俊　大山英子　石川フミ　入船久栄　松原利子　笠井トミ　田中アサエ　串田不二子　末包美知　岡野スミ子
S五　高橋良江　古市ウタ　三井春枝　石橋正子　津田シズ子　神田繁子　陶武子　高崎道子　川端スミエ　広瀬シゲ子　徳山敏子　岡内フジ　杉内武　河瀬綾子
S六　鶴沢看恵　田井武子　香川幸子　中村喜代子　松田富子　青木キミ　岩崎ミツエ　本田春栄　佐伯シゲ子　八代田敬子　半田アサエ　松原ハナエ　上田久　平田孝　壷井政枝　千生磯子　山田悦子　山崎ミツ子　逸見静子　市場惠美　藤沢孝子　西本久美子　細田晴子　小野八重子　大西チカ　藤井絹野　浜野ツヤ子
S七　小山ヨ子　大井茂子　日下貴美子　岡野美代子　山下静子　平井文代　松本敏子　朝日一美　谷本幸惠　太田喜代　松原フミ子　河田秀子　橋本ハナエ　三木智恵子　大森敏子　逸見光子　木村敏　中村政子　和田綾子　河田アサ子　奴賀勝子　網頭エスエ　井上久子　河田スマ　栢木光恵　木村民子　柴谷枝　清水加寿　鈴木芳枝　高木芳枝　長嶋子鶴　西岡フニ　林英子　馬場幾与子　平井のぶ子　広田美智　藤沢和子　松原巳代　前田シヅ　湯浅美恵子　梶原久米子　柴好枝　井上ヨシ子　高木ハルエ　藤澤義子　安金典子　江村道子　前田シヅ　三野文代　山下王恵　大林信子　谷口寿子　矢野トシ　河西隆子　平田ハナ　宏芸政子　大石良子　笠井増栄　田島宏子　玉木キヨ子　堤キヌ　中川喜美子　西原房子　浜松典子　宮脇ツヤ子　吉武ミツ子　豊田絹子　鶴尾綾香　穴吹武子　村尾田美　三木英子　谷本幸惠　太田喜代　松原フミ子　橋本ハナエ　三木智恵子　大森敏子　逸見光子　木村敏　中村政子　和田綾子　河田アサ子
S八　奴賀勝子　網頭エスエ　井上久子　河田スマ　栢木光恵　木村民子　柴谷枝　清水加寿　鈴木芳枝　高木芳枝　長嶋子鶴　西岡フニ　林英子　馬場幾与子　平井のぶ子　広田美智　藤沢和子　松原巳代　前田シヅ　湯浅美恵子　梶原久米子　柴好枝　井上ヨシ子　高木ハルエ　藤澤義子　安金典子　江村道子　前田シヅ　三野文代　山下王恵　大林信子　谷口寿子　矢野トシ　河西隆子　平田ハナ　宏芸政子　大石良子　笠井増栄　田島宏子　玉木キヨ子　堤キヌ　中川喜美子　西原房子　浜松典子　宮脇ツヤ子　吉武ミツ子　豊田絹子　鶴尾綾香　穴吹武子　村尾田美　三木英子　谷本幸惠　太田喜代　松原フミ子　橋本ハナエ　三木智恵子　大森敏子　逸見光子　木村敏　中村政子　和田綾子　河田アサ子
S九　喜美子　青木仁子　大島雅子　渋谷嘉子　萩谷喜美子　植村富美子　佐々木好　真鍋孝子　大森敏子
S一〇　新井益子　井上孝子　熊野花子　富山幸子　松谷芳　守屋富美子　山本キヨエ　矢村義枝　森崎治子　三好登代子　村上治子　久保央子　小西文子　近藤千恵子　長谷川寿子　小野政枝

蔵内ウタ子、古川千枝子、徳久静子、成瀬富、古市花子、山鳶信子、西加代子、細谷ヨシ子、森田輝子、井上幸子、太田光子、渡辺綾子、鎌田静子、香川治代、小島秀子、古市和気子、小川敏子、多田節子、高橋艶子、三好孝子、平田博子、石原益子、塩田時子、葛西常子、宇高トシ子、横松綾子、大西喜美子、松本常子、小川綾子、松原スミ子、亀山美奈子、赤松初栄、久保綾子、大倉昌子、井上妙子、古市妙子、古市朔佐子、橋場子、井上綾子、井上妙子、水谷町子、石川千代恵、宮本富美子、藤木光子、松岡恭子、赤沢ヨシエ、西岡綾子、引田多賀子

S二一　片山千代子、新佐嘉代子、内藤ヤナギ、山田保子、三木晴子、岡武子、小国智恵子、大木貴子、釜野重子、鷹尾律子、中島知子、藤本秀子、長谷部良子、富野光子、橋美代子、佐藤忠子、喜岡ツヤ子、香月フミ、高畠富子、松房カズ子、藤上寿江、合田千代子、長尾年志子、徳永ミチエ、横関静子、桑田三千枝、土居康、多田和子、青木マサ子、星田直、大森淑子、元木光子、鹿田喜美子

S二二　大社ヒサエ、坂口好子、上田美代子、赤沢節子、唐崎道子、原きみ子、宮本雅世、中村美恵子、丸尾喜美子、菅笑、四宮和子、長松文代、柏木梅子、佐々木良子、千歳シズエ、村瀬貴代子、名角綾子、杉原静代、小野文子、杉上政子、三好光江、滝口愛子、恵子、大谷美津代、藤澤豊子、久保利、三好光江、滝口愛子、杉野百合子、赤澤可寿枝、坂津代、吉田昌代、浮田園子、池本郁子、須田和子、河辺和子、三木加寿、川崎喜美子、林久代、山地文子、喜田和子、三谷トク、佐伯美枝、平野房子、森田春子、吉本綾、川津モト、長尾幹子、久保八重子、高沢キヨ子、吉原岡敏子、萱原敏子、河田キミ子、多田照子、中沢キヨ子、吉原フクエ、横倉ユキエ、磯川ふみ江、平田晶子、長滝正、奥村純子、佐野葉子、田中トシ、森田美代子、川田マサエ、楠紀子、宮脇久子、小林茂子、松下マスエ、綾田澪、中島静、高橋一枝、松本恵美、中明澄子、小林伸子、佐藤君子、宮本みさ子

S二三　三浦真子、萱原久子、杉山明子、橋本常子、井上雲美、木村艶子、村上愛子、横山千代、神崎多恵子、宮崎文枝、河地道子、小田文子、東原シゲ子、東原武子、上原小菊、前田エツ、千葉紀三子、廣瀬淑子、馬場章、武下小夜子、大塚美代、田渕恵美子、井田路子、峯百合子、葛原美代子、山下ミツ、久保愛子、久米八寿子

S二四　岩部真、秋風みどり、赤沢節、東条武子、香西久栄、中村美代子、根本美根、浜垣フミ子、加藤勝子、岡田久栄、植松良子、壁谷延子、萩島寿子、國井福美子、中川静子、千葉礼子、青山峯子、真屋シズ子、尾原富士子、三井邦枝、伊藤卓子、高田幸枝、渡辺勝子、近藤和子、黒田包子、岡本京子、石床サカエ、草薙富子、森川君子、平井真子、米谷真子、多田ミヤ子、二宮薫栄、野田豊子、竹島房子、天雲孝、樋端政子、山下正子、山崎喜美子、坂東数枝、佐々辰子、半田美枝子、細川恵美子、対馬タツエ、田村道子、丸吉多喜子、坂本幸子、氏家良樹、岡坂弘子、上田和子、木村茂乃、神保寿子、中橋美香、飯原美智子、広瀬静子、矢野フミエ、山野昌子、柴田善子、田所豊子、廣瀬百々枝、西本富子、村川トクエ、中條嘉寿子、高宮貞子、岡西ミヤ子、藤本淑子、岡野武代子、笠原マサ、大北晶子、福田正栄、中島アグリ、堀川貴美、亀友操、内田君子、河口良子、井上敬子、高木綾子、藤井三重

S二五　藤田君子、佐田▲子名

S二六　池内泰子、谷田智恵子、山口正子、北村愛子、松平敏子、内田信子、飯間喜美、清家華子、北條幸子、西村潤子、桑崎照子、武田千枝子、宮本ツヤ子、堀中美代子、新名淑子、米島和子、林寿恵子、川崎三子、高畑愛子、今垣澄子、梶浦和栄、石田安子、藤本豊子、田中純子、岡信子、鵜川静子、山田恵子、逸見治枝、形見米子、脇手巻、高木敬子、筑瀬恵美子、田中和子、小川忠英、山條寿子、木村文子、篠原たえこ、鞠弘子、遅澤シズ子、高吹貞子、畑本秀子、宮本幸子、笠行佐和子、片山路子、福西俊子、加藤澄子、藤井ヒサ

S一八　上浜亨子、畑中香寿子、浜口寿子、江森紀久子、灘波照子、仲村冨美恵、日下倭子、十河花子、真鍋聰子、三宅スズ子、阪本方子、山冨賀寿子、田村千代子、丹羽里江、井上キヨ子、中田文子、市原百合子、村瀬トシ子、上原祚子、白井芳美子、熊野弥生、佐藤満瑠子、江口鈴子、飯原仁代子、川野久子、佃艶子、鎌田須磨子

S一九　上田幸子、宮井武子、西岡咲子、脇節子、花田郁子、竹内房子、杉山直子、八木文子、小橋道子、北出保子、雨宮埼子、川原桟、細谷啓子、綾井寿美子、田村厚子、三池幸子、絹瀧照、石井繁、松尾和子、平井弘子、辻起三子、阿部美代子、芦沢淳子、生山幸子、岩井美智子、樫村光子、梶原美代子、川河信子、繁谷一子、大徳みち子、田中澄子、中田良子、中村美代子、望月敏子、安田歌代、山西義子、脇和子、橋本美代子、丸田千代子、林芳子

S二〇（5）　加藤みゆき、国里真佐子、橋本恵美子、松本陽子、山代苛津子、井上弘子、徳田礼子、秋山多美子、井口美代子、佐々木みね子、幸子、木村冨美子、喜岡美知子、小竹千代子、佐々木結子、高森多津子、津乗操、中村豊子、中村幸子、西風佐々木結子、原田和子、原田蔵、松本洋子、米澤寿、長畑秀子、岡内桂子、原田和子、原田蔵、松本洋子、米澤寿、長畑秀子、岡内フサ子、石井俊子、森和子、岸本智恵子、松本僑子、岡本信子、川津英子、村田綾子、宮地喜美子、久保明子、但馬綾子、宮井信子、宮脇昭子

S二〇（4）　伏見智子、太田美代子、山部悦子、溝渕智子、鎌田国子、加藤鎖子、佐藤貴代子、松尾照子、波多和代、対馬敬子、松島千代、陶静代、藤沢照子、吉原千香子、水野君子、山西典子、佐々木澄子、大園愛子、上原美智子、高橋文子、中塚須磨、井上久子、青木茂子、谷本文子、藤掛和子、奴賀滋子、山崎朝子、二川幸子、香西信子、村川幸子、西山恵美、笠井和子、東野淳子、十河操、樋口愛子、佐藤敦子、桑原和子、古市寿子、佐藤恭子、安達雷美子、井川美恵子、井上幸子、岩佐久美子、植田美重子、江崎隆子、加藤国子、香川美代子、岸田雅子、久保千恵、郡山生子、佐藤小百合、下浦文子、高尾利恵、武部恵子、鶴岡道子、中村静子、中村玲子、堀川信、真鍋光子、宮本ヨシ子、森弥栄子、湯浅幹子、大田潤子、植田エツ子、向永昭子、白石峰子、大林幹子、神谷順子

S二一　佐々木厚有、西尾信子、岡崎富枝、安藤浩子、佐々木聖子、井内菊代、高嶋桂子、中西敏子、長尾弘子、乃上テイ子、藤井敏枝、藤原寿子、山下鈴子、神内民子、松田郁子

S二二　宮武道子、榊原千香、津田美子、冨善展子、前田雪子、加藤冨美子、鵜川リツ子、田中節子、木村多美枝、糟谷美智子、西山富美子、岡田助子、川田愛子、出口ツタエ、矢田アイ子、林樋笠道子、未沢露子、矢野坂愛子、武田宏子、佐々木志磨子、赤城喜美子、荒岡敬子、伊藤悦子、伊藤尚子、上山佳生代、植松恭子、臼井幸子、小川隆子、岡美知子、岡康子、岡田ミネ子、加藤京子、川西艶子、木村哲子、喜多貞子、久保幸子、神浦律子、高津郁江、小林照子、小島靖子、近藤富士美、佐藤光子、酒井徳子、白石節子、白川和美、田尾敏子、田村ユキ子、滝野八重子、千葉節子、常谷俊枝、中野保子、西田恒子、花田喜枝、原田恵美子、坂東一子、福西喜美子、真鍋明子、宮前光子、三野恵美子、三好葉、溝渕輝子、森田由利子、山下泰子

S二四　松田淳子、尾形弥生、増尾幸子、宮武久子、河野孝子、佐々木慶子、淡河千鶴子、高村節子、丸岡勝、森和司、伊藤八重子、千葉節子、常谷俊枝、中野保子、西田恒子、花田喜枝、原田恵美子、坂東一子、福西喜美子、真鍋千恵子、真鍋明子、宮前光子、三野恵美子、三好葉、溝渕輝子、森田由利子、山下泰子

S二五　田代洋子、八田恵美子、三好愛子、岡部澄子、蓮井和子、水野綾子、武井美美子、大久保恵美子、谷本和子、野口喜世子、原美子、星野昭子、三好淑子、福田文子、塩田美代子

女子高

高　高

S二五　山口功男、国方勝、朝岡卓見、前田道正、夷学、西谷節子、河西孝信、西田暢子、唐渡朝子、相谷勝一、塩井敏治、町川洋三、太田英章、溝渕悟、小沒子代子、森稔、中沢誠一、稲田公子、藤井康宏、清治光男、原島次郎、今川幹也、四宮喜美子、塚田英司、河西慈子、岩田和弥、小林克己、藤村幸雄、大倉透、真鍋ヒロ子、岡田伊津、山下尚孝、難波文子、十河千恵子、松本利夫、北島定子、植田正太郎、前川治夫、伊賀智寿子、蒔田美智子、伏見フミ、川越久子、高橋周子、木村順子、冠野孝子、岡野弘子、畦絶江、秦徹郎、石田守、内海節子、多田昭義、武田公子、上田冨夫

S二七　今沢暉子、片桐千鶴子、大西繁、池田恭子、宇野正子、中西時子、石井桂子、山口芳子、遠山裕子、真田誠一、山口祥治、香川時綜子、杉内悦子、中村晄三、日下峰子、松本桂子、広瀬朝子、斉藤弘、高須芳子、池田乾一、塩田賢治、池田稔、安川芳子、太田一彦、森靖子、三村祥子、石津則子、村尾シズ子、北岡貴美子、長谷川順子、長船琇子、明石多美子、相谷美智子、塩田富美子、木村裕子、水野道代、樋野道子、塩谷健、高関隆子、佐々木史朗

S二八　大西博、小嶋浩男、岩沢令子、十河弘、永井正敏、植松繁太、町田照代、山口春雷、入船健一、荒木靖、品治邦男、村尾宗政、田井子秋、関谷聡子、高橋国夫、鈴木邦彦、高岡以佐美、高松千鶴子、石津治、大林誠一、前川初枝、井上洋子、平石益明、小亀静子、大塚裕康、中野兼子、川田景俊、高橋正、高羅淳一、野口永栄、今岡哲雄、山西守、香川典典、浜元茂、植田京子、大谷隆、高島俊三、西馬和子

S二九　石川修治、河田寛、井関賢治、中條泰行、首藤隆司、多田渉子、真鍋治子、佐藤重廣、吉井賢太、松村洋子、今村慶夫、都村忠弘、曽我部れい子、栗田俊彦、中村敬子、野口利行、漆原佳子、新野明子、漆原英子、藤本稔、藤本万子

S三〇　坂内美恵子、白井勝子、松野敏子、中山禎子、直原弘子、源淑子、堀長文、中西恵美、辻信子、土居君枝、大林弘子、渡辺澄雄、松原剛

S三一　石川槻治、石浜和子、神辺隆之助、岡田護、藤澤敬子、粒来美智子、新名弘康、中條康夫、中山信之、織田昭、寺内和子、原節子、井竿喜久子、村井弘委

S三二　池宗真砂子、原口克介、竹林治朗、山口俊治、大林義和、加藤悦也、原田明子、中山節子、松本邦子、濱田清、山崎司寿子、槻谷敬昌、美馬年子、山下正威、岡坂孝子、星山斐子、日下部悦子、陳村武子、川西フジ子、山本与子、芦原義介、綾野仁嗣、大西昭一郎、吉岡崇、谷森勉、太田英子、土居慶子、中嶋荘一郎、上野文夫、二川文一、真鍋光広、大林紀久子、前田道之、青木哲也、山地正真、大橋晶

S三四　石川雄子、石原英輝、吉井洋子、佐藤邦子、石川雄子、田中正仁、河野一郎、安藤知子、小松重貴、近藤敬司、新居哲、高田昌彦

S三五　神田日出子、星野登美、田井明子、小島武伸、泉文隆、武田由紀子、真鍋敏毅、藤井雅義、長尾綾野、木村斉、泉丸雅子、宮武正隆、真鍋敏毅、藤井雅義、長尾綾野、木村斉、泉丸雅子、宮谷本敏明、小笠原武、増田恵美子、平木剛、秦英樹、斉藤勇良、青木美美子、白坂寿子、山田泰二、本田道明、藤井英世、谷本明子、仲邑法顕、横山智子、松下佳代、山崎彰彦、河合英幸、上原繁美、福家充治、池田直樹、玉越浩美、藤本康夫、渋谷和美、長田利博、谷原昭子、宮武郁子、真鍋禮男、内山美代子、木村美美、山科桂子、高原徹、中川尊子

S三六　柘植智之、岡順子、西原良一、木下忠雄、小島武士、秦島実、木下昭栄、前田葉子、真鍋豊子、荒木統、徳永孝明、原田孝吉、山口武、寺竹幸子、真鍋豊子、荒木統、徳永孝明、原田孝吉、山口豊子、宇賀美代子、河田郁子、宮内薫、飛田久子、稲本陽一、奥村勝彦、川根征雄、清野雅雄、香西正武、神内好雄、永井勝雄、川崎昭夫、久谷忠光、横関誠、五ノ坪恵子、横井聡、神内隆行、鴨井高司、和波保、佐々木成道、浜松俊太、森昭弘、丸山勝義、寺竹衛、福家賀寿、中村靖、平山祐助、松原寛治、神原綾子、松尾公子、松尾公子、渋谷昌孝、大川元民、尾谷敏志、佐治聡、田中俊彦、野村健治、原田孝吉、牟禮和徳、岡本正、鎌田基志、千切谷多一郎、永峰恵子、中村和滋、吉田宏義、浜口カズ子、中村章、久保正篤、千葉洋、竹内喜弓、低田茂典、原内保、三野隆士、松本英神、山口喜美子、岡田佳代子、五ノ坪和彦、鴨川尚史、小林忠子、後藤浩一、高木宏子、谷本清真鍋敏男、増田昌三、中谷一郎、大嶋陽子、久保田幸世、松本由美、原洋子、生駒恭子、佐々木文子、横山喜子、松尾美明与田康子、北岡明子

S三七　中井孝機、塩田洋、杉野洋子、斉藤尚則、森田順子、倉山幸治、原田信祥、小西紀博、藤田雅敏、向井友一、高橋悦子、小川実石原久子、赤松治美、石橋紀明、中村和子、太田光則、新藤勝利、新藤禮子、国東照美、大山鈴世、小北賀俊一

S三八　長嶋恵子、蓮井愛子、小倉良弘、三野安意子、佐古昭代、村井恵子、宮島博文、蓮井愛子、小松和子、大恵眉美、真鍋和朗、嶋暉幸、嶋由利子、宮本測

S四〇　朝日俊彦、小河孝則、森川和子、宮崎尚子、泉谷武信、八田光田山晴美、角田朝則、前田みどり、穴吹良文、後藤正徳、森岡茂

S四一　合田佳徳、鎌田恵子、杉上彰、桑島治子、岩田喜美枝、中村秀明、上春伸一、多田幸生、香月玲子、牟礼明、小橋克彦、歌崎明子、赤沢武基、松浦幸子

S四二　木谷紀子、石橋真知子、増田佐由美、明石陽子、池田金幸、住田益子、後藤美和子

S四三　栗田文夫、吉田良順、林計治、桑田浄伸、山下敬、中野百合子、太田章、十河泰司、小坂悦子

S四四　宇川和幸、十河奉計、溝渕正敏、多田譲治、田中輝英、野田進、松本敏裕、小西廣司、清渕正幸、糸瀬敏江、川田佐知子、浜崎節子、向井万里子、村松子、伊賀宏文、小河雄磨、亀谷勝美、小竹和夫、新佐耕一、武田信道、中尾好輝、間嶋行雄、溝渕香代子、丸尾幸嗣

S四五　真鍋利男、塩田耕三、神内幾代、川畑ゆり子、坂口道啓、上田真知子、加藤高明、土居直哉

S四六　脇口明子、村上幸生、神内雅子、三谷哲夫、間嶋弘、高木敏彦、丸谷幸彦、秋山悦子

S四七　大石麻利子、林茂子、松山哲也、西山徹、西山弘子、上春智子、間島豊治、杉岡啓子、木村ますみ

S四八　泉暁美、片岡三佐子、福家浩一

S四九　松延秀一、三宅敏一郎、藤沢英治

S五〇　堤信也、藤本典子、野田京子、大西葉子、桑田敬子、川田雄萩本豊、萩本佳美、柴田節

S五一　松田和也、平野郁子、白石表史、阿部力理子

S五二　辻雅子、塩田昭弘、露木佳子、木下景子、吉田伊織、戸島貴代志、六車広行

S五三　大塚純、沼原利彦、平井仁美、大山康之、唐渡豊宏、増田俊也、相谷雅一、小川聡、山下美知、吉田守秀、糸日真也、吉川正美、松本浩章、北岡智子、藤沢佳子、山地規之、川端珠美、松延健二、大西えい子、関谷利裕、小田剛紀、島津良代、寒川修、森順一、片山弘恵、有川真光、秦敏博、大内昌代、福家徹朗、細川典宏、明石忠、山手明子、多田秀徳、黒川裕之、綾田栄司、藤本拓貴、逢坂和士

S五四　前川仁、十河智裕、鴨宣之、門脇禎人、渡辺美豊恵、真鍋公二、大内淑代、吉良洋平、関谷久美子、今沢明子、山崎万里子、矢野坂恵子、藤田いずみ、北岡明子、植松繁、丸山明利、増田智、佐藤瑞紀、大林裕子、大西研至、大塚和俊、川窪俊広、佳、大林明子、大西邦彦、渡辺礼香、井上直樹、今村研一、大林由池田和美、武田百合、土居良助、高橋万里子、大塚和辰

S六一　黒部亜古、原茂樹、篠崎琢磨、新名弘武、河野治、佐野国史、山本剛、石原裕三、長尾裕子、山田哲夫、堀仁一、森勇雄、渡辺浩司、岡坂佳代、葛原由起、藤本章子、常金典久

S六二　渡辺真紀、高橋昌子、黒田賢一、前田文子、柏井雅博、長尾美樹、北角強、蓮井美奈子、木原弘美、松本賢司、小田英敬、福家秀樹、新藤正明、上原恵奈、大塚和史、葛原由美、上原健司

H元　泉百合、伊藤奈緒子、越智宣夫、金沢哲、真鍋未希、松本里恵、尾山香織、泉祐司、宮本隆宏、武田紀子、馬場聡、高倉宏明、永井陽介、原田裕子、斉藤利幸、上河美容、田坂悦子、堀名紀、関光晴、桑島和子、小林亜紀、福島貴子、武田哲司、三木直也、大塚早紀、小松史明、太田耕司、竹林秀人、萩原典久

H二　吉野友佳里、神原圭吾、菅真由佐、榊芳輝、宇都宮玲、伊藤淑子、別宮優美子、斎田美和、寺川真貴、野田幸子、宮崎志穂、岩田英以子、野沢美奈、藤本真佐、酒井知子、綾戸真紀子、吉田和樹、山下美樹、柳知栄子、藤原加奈子、高木通代、川崎祐一、佐藤かおり、後藤亮、吉田豊、中村友香、加地英輔、雪入奈美、升田信也、香西秀俊、橋本知恵子、田村大輔、末沢佳代、松崎みどり、山下史朗、十亀紀彦、浦賀直子、松尾裕子、白川和世、西原一成、十河利樹、横崎裕道、池田操

定時制

森川輝男、竹内須磨子、木村宣三、池田修、玉木勲

通信制

浜田尚子、青木千夏子、佐々木允子、斎藤充生、山下陽子、松本正義、南繁父、丸吉洋子、森部正義、中井義幸、安倍ッタ江、山下シゲミ、松野清美、斉藤裕雄、角陸和子、村上美智子、横峰豊、頼葉恵子、博子、宮尻節子、岡田禎夫、豊田博美